

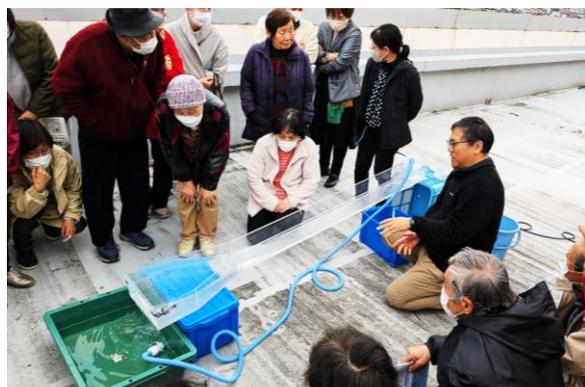
まちづくり学習会「福山の災害に備えて」

実験と講義を、備後の里5階で開催！



奇しくも3月11日に「福山の地形と災害リスク」という環境学習会を開催しました。講師は福山市立大学都市経営学部教授である澤田結基さんをお願いしました。最初に中川恵子まちづくり委員長の呼びかけで、黙とうを行い講義に入りました。

講義では、土地の形を研究し、理由を探ると災害リスクが分かる。福山の土地の成り立ちを考えるとリスクが分かる。地形、低い土地と山、生じる災害の質がわかる。東京には坂が多く、台地は海面より高く津波が来ない。山が無いので土石流は起きない。災害に強い台地に武家屋敷が建ち、上野や浅草など低地に下町をつくった。広島には台地が無く、花崗岩で出来ていて、風化しやすく軟弱なため、災害リスクが高い。と説明がありました。



その後、花崗岩の風化で出来た砂が雨に流されて三角州が出来る実験を行いました。(左)水分を含んだ砂の入ったペットボトルを振る



と、水分が砂の上に上昇し砂と分離する(地震による液状化)の実験も行いました。福山駅から南側では、地震によって液状化するので車での避難は危険です。

※ 災害の備え：「自分の地域は安全」という意識は捨てる。住んでいる地域の地形を確認する。ハザードマップを見て、具体的な危険を認識する。豪雨、地震発生時の短期(避難)、中期(備蓄等生活維持)計画を立てる。